

シビック・プライド越谷新聞

第2号*令和8年5月1日*旧日光街道・越谷宿を考える会*越谷のシビック・プライドを楽しむ会*発行

徳川家康が豊臣秀吉の命を受けて江戸に入り、利根川の流れを銚子の方に移動し、荒川の流れを入間川の流れにする工事を行って、関東平野をヒトが生活できるようにして、そのあと、行なったのが、日光街道を造ったことです。

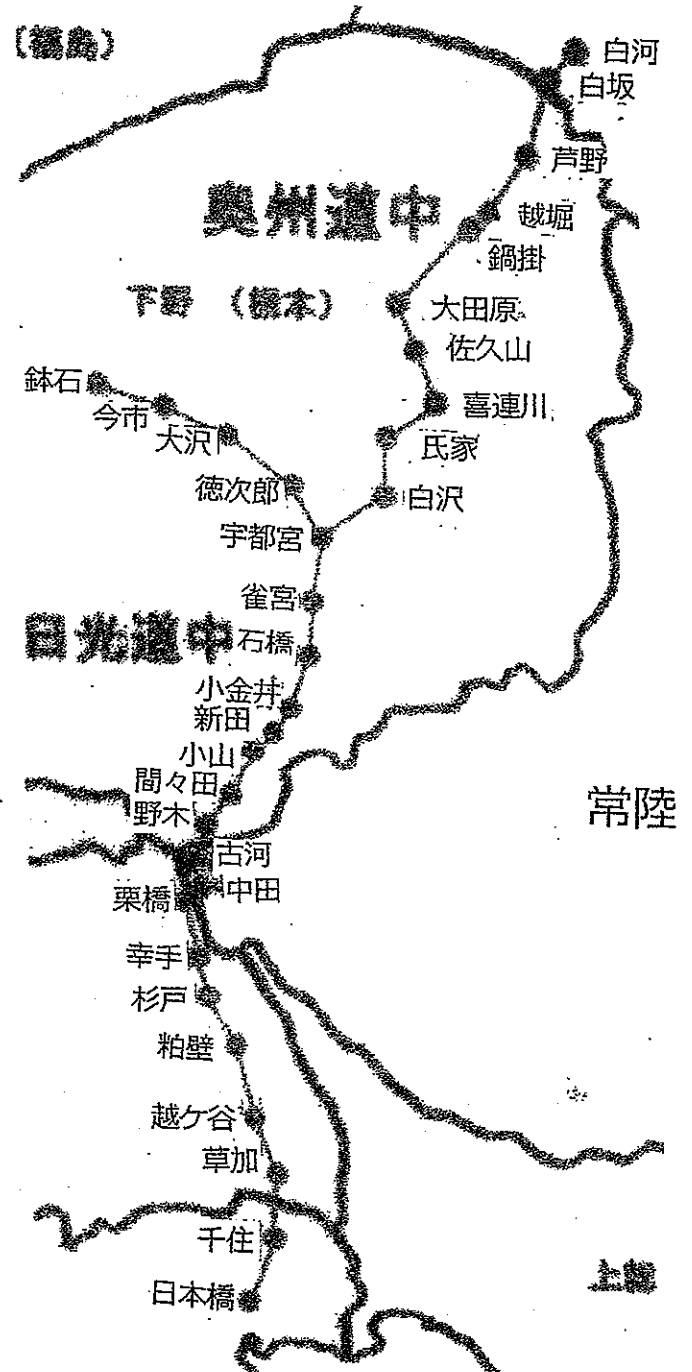
そして、私たちの越谷は、その宿場町として発展してきたのですが、日光街道を江戸から日光への短い、小さな街道のように考えておられませんか。

でも、実は「立派な」街道だったので、参勤交代のお殿様が何人ぐらい通ったかを街道ごとに数えますと、東海道の

140家の次は、奥州街道37家と日光街道3

家を加えた40家で、中山道は30家、甲州街道3家になるのです。

(1822年(文政5)、200年前の道中奉行の決めた家数)



日光道中・奥州道中の宿場
くねっと・コトバスツアーから

日光街道は、五街道で2番目に「通るお殿様」の多い街道だったのです。

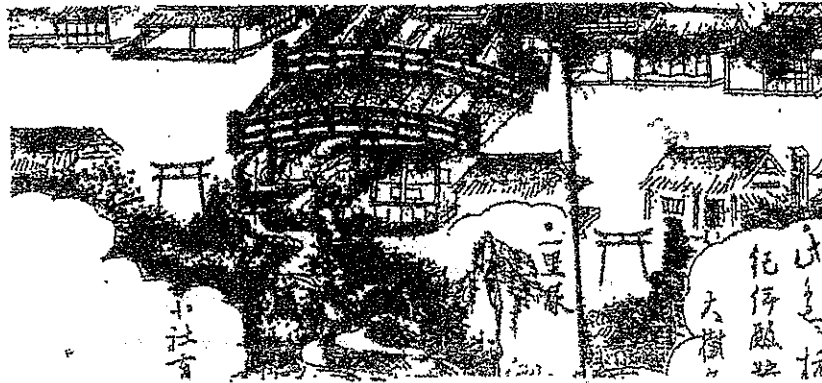
○日光街道のデータは～

☆起点は「日本橋」。^{はちいし}鉢石まで20宿（21宿ということもある）。距離は142.8km。38里。当時のヒトは1日10里（40km）歩いたので、3泊4日で日光です。

日本橋→2里→千住→2里15町→草加→1里30町→越谷=計6里9町

☆一里塚 ①浅草（雷門周辺？）②千住（東京芸大付近）③^{ろくがつ}六月（足立区島根）④草加（吉町？）⑤蒲生（県内で唯一の一里塚残る）⑥越谷（大沢橋付近）⑦^{しも まくり}下間久里

江戸時代の絵を見ると、大橋（大沢橋）の近くに描かれていますが、影も形もありません。



☆武奥増補行程記 清水秋全作 寛延4(1751) 国立国会図書館蔵

☆いつ開通したかは正確には不明 ①1602年（慶長7）奥州道に宿駅制度しかれる②1612年（慶長17）街道整備の大沢忠次郎基雄が派遣された③1635年（寛永12）参勤交代制度しかれる④1636年（寛永13）日光東照宮竣工・・・

☆道幅 5間（9m）という（武蔵国道法「武蔵田園簿」所収）

☆誰がイチバン偉かったか 徳川將軍は別格として、一番偉い（怖い）のは、日光門主（東照宮と寛永寺を兼掌）であっただろうと思われま
す。

八戸藩・南部家の御入部御道中帳（寛政9年=1797）と御参勤御
道中一件帳（文政9年=1826）には「日光宮様<門主>ご旅行の砌、
お出先へ行きかかったときは早速、物陰へ相控えご通行以後、まかり
通るべきこと。物陰がないところは往来より引き離れてご通行以後、
まかり通り、下座いたすべきこと」とあります。

当時、八戸藩は2万石ですから100~200人位の人数の行列だった
と思われませんが、ホントに隠れるようなことが起こったら、団体の隠
れん坊は大変だったことでしょうね。

○大名も大変だった、参勤交代

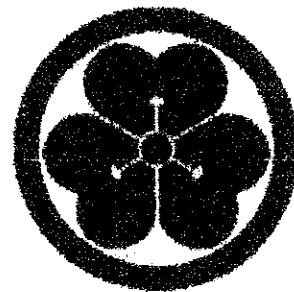
2年に1回、自分の領地に帰らねばならない参勤交代制度によって、
仙台・伊達氏、秋田・佐竹氏、会津・松平氏など、東北の大名41家
ほどが、日光街道を通りました。

☆盛岡藩南部家藩主・南部利視が享保11年（1726）、盛岡に帰る
時、帰国の費用のメドがたたないうちに出立の日！ 江戸屋敷の
前に見送り客が集まってきたが、当座の旅費がなく、いつまでた
っても屋敷を出立できない。八方手をつくして金策に走り、夕刻になり、見
送りの客が帰ってしまったあと、よう



やく江戸屋敷を出立できた。

☆出羽・庄内藩酒井家藩主・酒井忠徳が安永元年（1772）、はじめての参勤交代で帰国の時、酒田までの旅費が全額調達できないまま江戸を出立。国元には急遽送金を伝えてはいたが、福島で旅費が尽き、行列は福島で、送金を待つ。藩主・忠徳は藩の現状に落涙。



酒井家 家紋

☆大名行列の実態は～

一朝、事あれば、すぐさま戦闘状態に入れるよう隊列を組んだ行列です。常在戦場ですから、夜も起きている様子を周りに見せる必要がありました。あかりを燈し、小姓が不寝番として二人座って、太平記などを殿様に読みきかせていました。夜に眠れない殿様は、日中、駕籠の中で寝ていたのです。

殿様の食べ物は自家調理が原則で、台所奉行が作り、近習が毒見をしたものを食べました。材料は現地調達でしょうが、地元の名物を味わうのは難しかったようです。

大名によっては、漬物樽をかついでゆくものもありました。また、風呂桶をかついでゆく行列もあったとのこと。

☆参勤交代により、大名の経済的負担は大きいものとなっていた

江戸時代中期をすぎると、どこの大名も台所事情が苦しく、参勤交代の旅は「七つ立ち」に「六つ泊まり」が多くなる。

七つ立ち=午前4時出発 六つ泊まり=午後6時宿泊地・着

④ 朝の午前四時に出発し、宿場に入るのは午後六時という強行軍

である。なるべく宿泊を減らし、費用の節約をはかったのです。

☆日光例幣使

家康死後 30 年たった正保 3 年（1646）、東照権現が東照宮と
なって臨時の奉幣使がおくられ、翌年から慶応 3 年（1867）
まで 221 年間、毎年、天皇の名代として通常、参議に列せらせ
られる公家が日光に金幣を奉呈しに出かけました。50～60 人ぐ
らいの規模で 3 月末から 4 月 1 日に京都を出発し、中山道、倉
賀野からは例幣使街道を通過して日光へ行きました。そして、帰
路は日光街道を通り、江戸で將軍家に挨拶をして帰りました。

☆大変な人たち 日光例幣使

天皇が正月三が日の間、神前に供えた御膳飯を乾飯（ほしいい）
にし、五、六粒を菊の紋章を押した紙に包み、御供米として、
休憩・宿泊の代として下し、宿代はいくらも払わなかったよう
です。この包みを八万個も携行した例幣使もいたといひます。
この御供米は庶民の羨望の的でした。病気に効くという迷信が
あったからで、品川宿では老若男女が宿舎に殺到、例幣使は楼
上からこれを投げ散らしたという話もあります。更に、この例
幣使に接近しておくとも、流行病にかかっても軽くすむというの
で、例幣使の輿の下をくぐったとか、例幣使の入湯した湯を貴
重な薬湯として多くのものが飲用したといひます。



上図は、日光道中・越ヶ谷宿の入口にあった「中屋」さんです。「みみの薬」とありますが、「二人御めし、めんるい」「御料理」「御茶漬」などともあって、薬屋さんと食堂をかねたものだったのででしょうか。その場所は、大相模不動尊へ行く不動道との追分でもありました。当時の旅行ガイドブックともいうべき「雑国道中商人鑑」(竹野半兵衛・壺井円水撰 花屋久二郎刊 文政10(1828)年 国史館蔵)に出てくる 当時の越ヶ谷宿を描いた貴重なものです。

<p>日光道中越ヶ谷宿 玉屋さん</p> <p>御泊宿</p> <p>越ヶ谷大澤町 脇本陣</p>	<p>御泊宿</p> <p>越ヶ谷大澤町 橋屋棟左衛門</p>	<p>高御泊宿</p> <p>越ヶ谷本町 高崎屋傳兵衛</p>	<p>公料理御茶漬</p> <p>越ヶ谷宿入口左側 佐喜屋公儀</p>
-----------------------------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	-----------------------------------------

玉屋さんは、脇本陣であることを誇りに～

東上り
東上り
東上り

東上り
東上り
東上り

東上り
東上り
東上り

塗師市さんの広告
太物とは綿、麻など絹より太い織物
秋田屋さんは、秋田藩お気に入りの鰻屋、飯盛女御座なくそうろう
女性の方、安心して泊りいただけます
羽生屋さんはセールスポイントを逆にして～
当店は飯盛女がおりません

<p>名物 浦焼所</p> <p>諸侯様 御宿所</p>	<p>御茶漬</p> <p>御酒肴</p> <p>大黒屋仁左衛門</p>	<p>御泊宿</p> <p>越ヶ谷大澤町 天神ノ前</p>
--------------------------------------	--------------------------------------	-----------------------------------

○表紙・大判、中判のもの
「雑国道中商人鑑」 竹野半兵衛・壺井円水撰 花屋久二郎刊 文政10(1828)年 国立国会図書館蔵
○表紙・小さい判のもの
「東上り商人鑑」 大城屋良助編・板 安政2(1853)年 <通中記集41 今井金吾監修 大空社 H9刊 >

☆大変なお墓まいり・日光社参

吉宗の時の社参は13万3千人が参加し、先発隊が宿舎の岩槻城に着いても、最後列はまだ江戸城で出発を待っていました。遠く、生駒山麓の日下村（いまの東大阪市）でも、この社参の際、庄屋・年寄・村役人以外は外出禁止、喧嘩口論もちろん禁止、火の用心を慎み、もの静かにすごせというお触れがだされ、鍛冶や桶やも大声で商う魚屋も臨時休業。将軍が江戸城に戻ったという連絡で村中、ホツとしたという記録が残っています。

☆本陣差合（さしあい）

今もダブルブッキングとかオーバーブッキングとか、ホテルでもめごとあ起こることがありますが、文政13年（1830）、越谷宿に岩槻浄国寺方丈の先約があるのに、日光門主名代の江戸谷中覺成院方丈が本陣利用を通告してきて、すでに浄国寺方丈は本陣へ入っているのに明け渡せと迫ったことがありました。お断りした越谷宿本陣は寺社奉行から道中奉行へ訴えられましたが、お咎めなしとなって、よかった、よかった！